

ハイパーサーミアの治療評価

ー機能・痛み・症状の数値化による新たな試みー

原三信病院 放射線治療部門

廣瀬哲雄*、元村哲也**、井上文江***、高木正統*、寺嶋廣美*

*放射線科、**臨床工学科、***看護部

【目的】

ハイパーサーミアの治療効果判定は画像診断上の変化および腫瘍マーカー等の改善が指標となっている。一方でハイパーサーミアにより腫瘍の成長を抑制し、長期に亘り一般生活を送る症例も存在する。これらの評価に画像診断以外の客観的指標を用いて加温継続の優位性を示すことができるか、その可能性を検討した。

【方法】

今回、指標とした項目は、① 全身状態の臨床的判断 (Karnofsky scale)、② 痛みの強さの評価 (Visual Analogue Scale :VAS)、③ Pain Score、④ Narcotic Score、⑤ 食欲、⑥ 加温部位 (胸部・腹部)、⑦ 症状等とし、各々を数値化した。

【調査対象者の区分】

調査期間中の患者を① 治療終了、② 治療開始・終了、③ 治療開始・継続中、④ 継続中、⑤ 中断に区分した。

【結果】

Karnofsky scale、VAS、食欲に関して継続中治療患者は高いポイントとなり、加温の優位性が示された。